

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年目)

## 1. 研究課題

日本鍼灸医術の形成—近世医学史の再構築

Formation of Japanese acupuncture-moxibustion: Reconstruction of the medical history in medieval and early modern Japan

## 2. 研究代表者氏名

長野 仁

NAGANO Hitoshi

## 3. 研究期間

2018 年 04 月 - 2021 年 03 月 (2 年度目)

## 4. 研究目的

現代鍼灸は、極端な欧化政策による鍼灸廃絶の危機を回避するために、医科学的アプローチによる臨床研究を最優先課題とし、医道の伝統を継承しつつも歴史的な側面は置き去りにしている。日本医学の通史を振り返る時にも、近代医学の系譜として先駆的業績を顕彰するに止まり、近世に大いに発展した鍼灸医術の種々の流儀や理論的構造に論及することはない。しかし、京都大学の富士川文庫をはじめとして、数多くの流儀書、理論書が伝存しており、日本医道における技術的伝統は手がつけられないままに埋没している。そこで、本研究では、鍼灸関連の古医書の総合的な考察を試み、鍼灸医術の形成、伝承形態の具体的様相を明らかにし、多角的なアプローチによって鍼灸医術の本質的特色を探る。そして、「日本鍼灸学」という新分野を開拓し、医薬、鍼灸の学界に遡及的考察を行う研究基盤を構築することによって、近世医学史の再構築を図る。

## 5. 本年度の研究実施状況

近世から現代へと受け継がれてきた鍼灸医術の流儀書、伝授書を読解し、流派の形成過程や伝授形式を明確にすることで、日本医道の技術的伝統を復権させ、近世医学史の再構築を図る。本年度は、近世社会に大いに発達した針術、灸法について、特別講師や班員の研究発表を通して遡及的な考察を試み、その源流と発展の具体的様相を探った。とりわけ、『五体身分抄』『五体身分集』という中世の抄物医書について、『医心方』から『福田方』に至る間の空白を埋める資料的価値を見出し、東京国立博物館資料館等の資料調査を行うとともに、研究班での討議を踏まえて、2020 年 1 月 12 日に北里大学で開催された第7回鍼灸医

学史研究発表会で研究発表を行った(長野仁、富田貴洋の共同発表)。そのほか、松江歴史館学芸員・西島太郎氏、いつも財団事務局次長・梶谷弘氏、島根県立盲学校教諭・渡部良平氏と連携しての芦田家文書整理作業を計画し、目録作成の検討会をおこなった。また、戦国武将と医薬学に関する古医書について東京大学史料編纂所、熊本県立美術館、内藤記念くすり博物館等の所蔵資料を調査、蒐集し、明智光秀の『針薬方』めぐっては、NHK京都放送局と連携した公開イベントを企画し、2020年2月8日に芝蘭会館山内ホールにて開催した。

## 6. 研究成果の概要

なし

## 7. 本年度の研究実施内容

2019-06-02 第6回「日本鍼灸医術の形成」研究会『痧脹晰義』について 発表者 池内 早紀子 大阪府立大学・博士課程

『鍼灸要法』について 発表者 谷田 保啓 たにだ鍼灸院・院長

中世イスラム医学の焼灼法と器具について—10世紀スペインの医学者ザフラウウィー(ラテン語名アブルカスィス)の『医学詳解』から 発表者 尾崎 貴久子 防衛大学校・准教授

2019-09-08 第7回「日本鍼灸医術の形成」研究会 見立て論—西洋医学と東洋医学ではなぜ診断がことなるのか 発表者 猪飼祥夫 猪飼針灸院長・北里医史研客員研究員

砭石について—老官山出土医学資料から 発表者 猪飼祥夫 猪飼針灸院長・北里医史研客員研究員

易緯通卦驗に見る二十四経脉経 発表者 猪飼祥夫 猪飼針灸院長・北里医史研客員研究員

2019-11-03 第8回「日本鍼灸医術の形成」研究会『五体身分抄』と『五体身分集』の成立問題 発表者 富田貴洋 勇貴堂鍼灸院・院長

日本における灸罰の歴史 発表者 舟木宏直 京都仏眼鍼灸理療専門学校・専任教員

2020-02-08 一般公開セミナー「明智光秀は名医!?だった—転換期の医術と戦国武将—」(第9回「日本鍼灸医術の形成」研究会)「光秀所伝『針薬方』の薬方と鍼灸 発表者 長野 仁 森ノ宮医療大学大学院

中世日本における金瘡医の出現と金瘡書の成立 発表者 鈴木 達彦 帝京平成大学薬学部

『針薬方』を伝えた男、米田貞能とは? 発表者 山田 貴司 熊本県立美術館

越前一乗谷の医薬史と明智光秀の前半生 発表者 石川 美咲 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

明智光秀 — 牢人医師はなぜ謀反人となったか — 発表者 早島 大祐 関西学院大学文学部

2020-02-09 府民公開講座「鍼の聖地いばらき in OSAKA 早春ハラノムシまつり」令和の  
鍼灸—新時代の可能性— 発表者 矢野 忠 明治国際医療大学

2020-03-01 富山鍼灸学会学術講演会(第10回「日本鍼灸医術の形成」研究会) ヒストリア  
の秘話—明智光秀と医術— 発表者 長野 仁 森ノ宮医療大学大学院  
科学史家が占う日本鍼灸の未来 発表者 武田時昌 京都大学人文科学研究所

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

『香川南洋門人録』(近世医家新出史料集第二冊)(担当:永塚憲治・松岡尚則) 2020年  
2月8日 一般公開セミナー「明智光秀は名医!?だった—転換期の医術と戦国武将—」(京都  
大学芝蘭会館山内ホール) 2020年2月9日 府民公開講座「鍼の聖地いばらき in  
OSAKA 早春ハラノムシまつり」(後援、茨木市福祉文化会館 オークシアター) 2020年3  
月1日 富山鍼灸学会学術講演会(富山鍼灸学会との共催。富山県民会館 701号室)

#### 9. 研究班員

所内

武田 時昌、古勝 隆一、高井たかね、平岡 隆二

学内

赤澤 久弥(附属図書館)、成 高雅(人間・環境学研究科)、中神 由香子(医学研究科)、  
劉 青(人間・環境学研究科)

学外

荒川 緑(東洋鍼灸専門学校)、猪飼 祥夫(猪飼鍼灸・院長)、ウォルフガング・ミヒェル(九  
州大学)、浦山 きか(森ノ宮医療大学)、浦山 久嗣(赤門鍼灸柔整専門学校)、大浦 宏勝  
(はりきゅう処 路傍庵)、郭 秀梅(順天堂大学)、加畑 聡子(二松學舎大学大学院)、紀野  
江理(森ノ宮医療学園専門学校)、小曾戸 洋([公財]武田科学振興財団杏雨書屋)、佐々  
木 啓(鍼灸鴻仁)、島山 奈緒子(明治国際医療大学)、鈴木 達彦(平成帝京大学)、高津  
孝(鹿児島大学)、多田 伊織(鈴鹿医療科学大学)、谷田 保啓(たにだ鍼灸院)、中神 源  
一(中神内科クリニック)、長谷川 佳与子(奈良女子大学大学院)、東 昇(京都府立大  
学)、深水 美和(専門学校 大阪医専)、松木 宣嘉(四国医療専門学校)、真柳 誠(茨城  
大学)、三鬼 丈知(大谷大学)、物部 陽明(森ノ宮医療学園)、横山 浩之(森ノ宮医療大  
学)、吉永 進一(舞鶴工業高等専門学校)、梁 永宣(北京中医薬大学)、和辻 直(明治国  
際医療大学)

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	1	3 (3)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	17 (10)	6 (6)	6 (6)	4 (4)
国立大学	3	3 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	2	6 (3)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	14 (7)	0 (0)	5 (5)	1 (1)
私立大学	10	20 (10)	0 (0)	5 (3)	5 (2)	26 (9)	0 (0)	6 (4)	3 (2)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	7	7 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	7 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
民間機関	7	11 (4)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	16 (6)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	85	107 (36)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	174 (58)	3 (3)	0 (0)	1 (0)
計	116	161 (60)	3 (3)	9 (7)	12 (6)	273 (99)	9 (9)	17 (15)	11 (9)

※( )内には、女性数を記載

## 11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	17(17)
国際学術誌に掲載された論文数	4(4)

※( )内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	王 栄:日本制作委員会【編著】『中医基本名詞術語中日英対照国際標準』東洋学術出版社出版(2019/10)の編集委員会、審定委員会
総論文数	1(1)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※( )内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
Acupunct Med.	1	Influence of electroacupuncture stimulation on skin temperature, skin blood flow, muscle blood volume and pupil diameter.	Kubota T, Mori H, Morisawa T, Hanyu K, Kuge H, Watanabe M, Tanaka TH
Journal of Pain Research 2019:12	1	Emotional Effects on Factors Associated with Chronic Low Back Pain	Koichi Ouchi, Mayumi Watanabe, Chikako

			Tomiyama, Takuya Nikaido, Zaigen OH, Toru Hirano, Kohei Akazawa, Nozomu Mandai
Health, 2019, 11	1	Relationship between the Current Account Balance Ratio and Salary Ratio in Japanese Municipal Hospitals.	Mandai N, Watanabe M
中医薬文化 2020 年 第 1 期(第 15 卷、総第 86 期)	1	京都大学附属図書館富士川文庫所蔵中医稿抄 本初探	成高雅・于 業礼
医譚 110 号	2	『婚姻祕術抄』再攷: 江戸前期寫本の解題・翻刻	永塚憲治
医薬の門	4	薩摩博物学の貴重なコレクションを有する～鹿児 島大学附属図書館中央図書館～ (医学図書館 探訪)	永塚憲治
日本大学人文科学研究 所研究紀要 98 号	1	加古角洲『吐方撮要』攷一江戸時代における吐 方の研究一	舘野正美
LiSA(Life Support and Anesthesia)	3	日本鍼灸の段階論・前編	長野仁
実践鍼灸美容学(改 題・第 2 版)	1	実践鍼灸美容学(改題・第 2 版)	王財源
免疫を高めて病気を治 す最強事典	1	自律神経を鍛える! 乾布摩擦で背中をこすると、 免疫が高まり若返り効 果大!	渡邊真弓

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

13. 次年度の研究実施計画

引き続き富士川文庫を中心とした研究資料の読解を行いながら、班員による研究発表とともに、鍼灸医術に通じた研究者、臨床家を招いた特別講演会を開催し、江戸の鍼術の流派を系統的に整理し、近代の欧化政策による弾圧を克服して、現代鍼灸にどのように継承されているのかについての具体的様相を探る。また今年度は、中医学、韓医学と比較しながらの検討を目的に、海外からの特別講師を招いた講演会開催を計画している。研究発表・講演会とは別に、松江歴史館学芸員・西島太郎氏、いつも財団事務局次長・梶谷弘氏、島根県立盲学校教諭・渡部良平氏と連携し、松江藩鍼医芦田家文書の目録作成を進め、当該分野研究の基盤を整備する。班員によるこれまでの研究成果をまとめるため、論文集刊行のための編集作業を進める。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 8 回 国内出張旅費(延べ 24 人)	支出予定額 (600,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費(延べ 3 人)	支出予定額 (90,000 円)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
	招聘旅費	招待人数(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
謝金(講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (50,000 円)
消耗品等経費	資料購入費(昆山先生六書、病因考写本 10 種ほか)		支出予定額 (60,000 円)
その他	印刷費		支出予定額 (200,000 円)
合計			1,000,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

共同研究の成果として、班員の研究成果をまとめた論文集を編集し、再来年度に刊行予定である。 富士川文庫資料の読解、および松江歴史館・いづも財団・島根県立盲学校と協力して芦田家文書の目録作成を引き続き進めるほか、中堅、若手研究者とともに国内各所の鍼灸関連書の発掘と研究調査をおこなうグループを組織し、研究に資する基礎資料と成果の蓄積、人的資源の継続的な発展、拡充を図り、日本鍼灸医術研究進展への布石とする。